

報道関係各位

京薬大・京都橘大によるチーム医療の実践を通じた地域医療に関わる人材育成 合同多職種連携教育（IPE）を開催

薬剤師・看護師・理学療法士それぞれの患者支援を学び、話し合う

京都薬科大学(京都市山科区、学長:後藤直正)と京都橘大学(京都市山科区、学長:日比野英子)は2020年12月21日(月)、多様化する患者対応のためにチーム医療を推進できる人材育成の一環として、多職種連携教育(IPE:Interprofessional Education)を合同で開催しました。



この合同多職種連携教育(IPE)は、異なる医療教育を受けている学生たちが垣根を越えて学び、話し合うことを通して、それぞれの職種の強みや弱みを知り、チーム医療への貢献を理解することを目的に2016年度から開催、今回で5回目を迎えます。

今年度は、京都薬科大学 薬学部の5年次生8名、京都橘大学 看護学部の4年次生が14名、健康科学部 理学療法学科の4年次生が6名の計28名が参加。薬剤師・看護師・理学療法士の3つの立場から、同じシナリオ事例を用いて各学部の学生たちがチーム医療を共に考えました。プログラムでは、はじめに同じ学科の学生同士で編成されたグループでの討議とグループ発表を行い、次に学科混成により編成されたグループでの討議とグループ発表を行うことで、チーム医療の有効性と共通の目標(アウトカム)を設定する難しさについてより深く考える機会としています。

参加した学生からは「他職種がどのような観点で患者さんに関わっているのかを知り、新たな気づきがあった」「異なる視点をすり合わせることの難しさと同時に、患者さんの望む生活を叶えたいという共通目標を持って議論することの大切さを感じた」などの声が聞かれました。

共に山科区で医療系学部を持ち医療従事者を輩出する両大学は、多職種連携教育を核に教育研究協力に関する包括協定を2019年3月に締結しています。本取組は、医学部を持たない大学同士であるからこそ、実際の医療現場において、医師と対等に議論し、患者のための治療・ケアの提案ができる実質的な力を身につけるモデルケースとなりうるものと考えられます。コロナ禍にあっても連携を弱めることなく、チーム医療を実践的に学ぶ機会として今後もプログラムの充実を図り、より専門性と実践能力の高い人材を育成し、地域医療への貢献を目指していきます。

<プログラムの詳細>

■スケジュール

日時:2020年12月21日(月)12:45~17:30/場所:京都薬科大学

時間	内容
12:45~12:55	趣旨説明およびアンケート回収
12:55~13:00	移動(5分)
13:00~13:50	第Ⅰ部:学部ごとのグループディスカッション 薬学部・看護学部・理学療法学科の学生それぞれのグループで討論
13:00~13:50	移動・休憩
14:00~14:20	各グループの発表
14:20~14:30	移動・休憩
14:30~16:00	第Ⅱ部:学部混成のグループディスカッション 薬学部・看護学部・理学療法学科の学生が混ざったグループで討論
16:00~16:10	移動・休憩
16:10~17:00	各グループの発表および質疑応答
17:00~17:30	各大学教員からの講評およびアンケート記入

■当日のシナリオ事例(概要)

80歳代の男性が、畑で倒れているところを発見され救急搬送された。MRI検査で脳梗塞と診断され、脳神経外科に緊急入院。全失語状態、頭部左方偏位、右片麻痺。

血栓を取り除く治療後、麻痺は改善したものの言語障害残存。約1週間後にリハビリ科へ転科となり、見守り、誘導があればほぼ自立できるようになった。当初から本人の帰宅願望が強く、入院生活のストレスが増強。約2ヶ月半後、在宅医療を見据えた地域連携カンファレンスを開催し、退院した。内服薬の自己管理が困難なため、退院後は妻が服薬管理を行う予定だが、介護サービス介入の検討も必要になる可能性がある。

本件に関するお問い合わせ先

京都薬科大学 企画・広報課
担当:川勝・谷垣
TEL: 075-595-4691 FAX: 075-595-4750
kikaku@mb.kyoto-phu.ac.jp